

山本大臣閣議後会見

平成26年6月27日

SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) 事例紹介

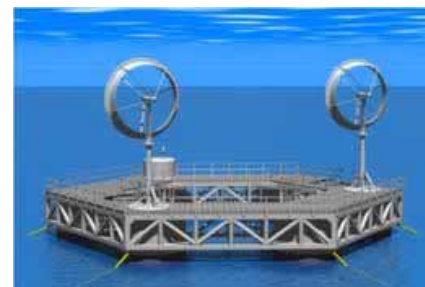


軽く、強く、熱に強い

革新的構造材料

政策統括官

(科学技術・イノベーション担当) 付



今こそ、構造材料！

社会的な必要性

省エネルギー、排出ガス削減
エネルギー転換・利用効率向上を実現

➡ 軽く、熱に強い構造材料

産業競争力上の重要性

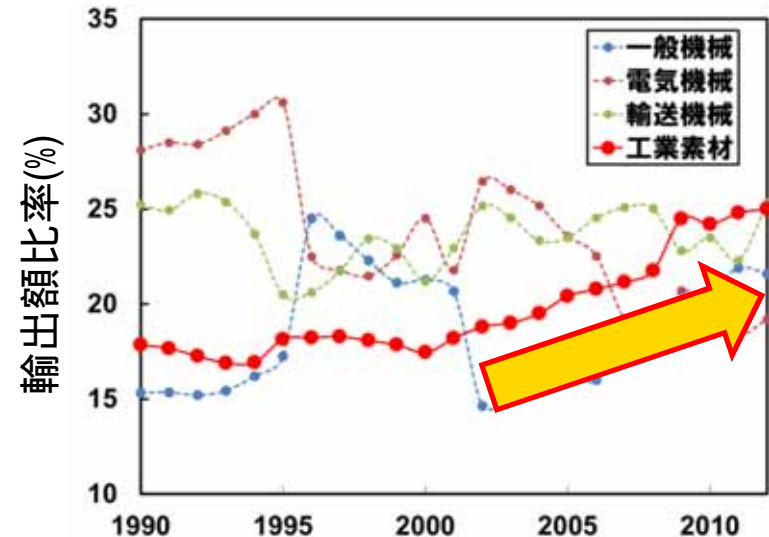
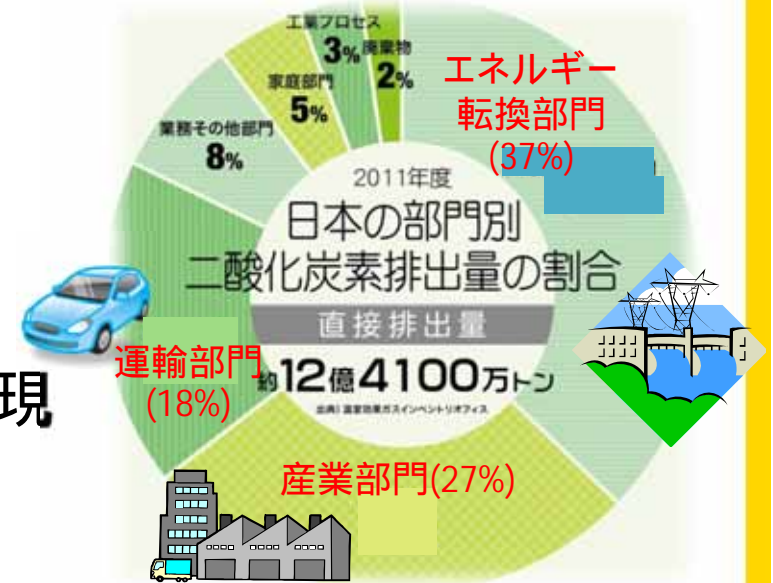
国内の輸出産業の中で

工業素材の存在感は年々向上

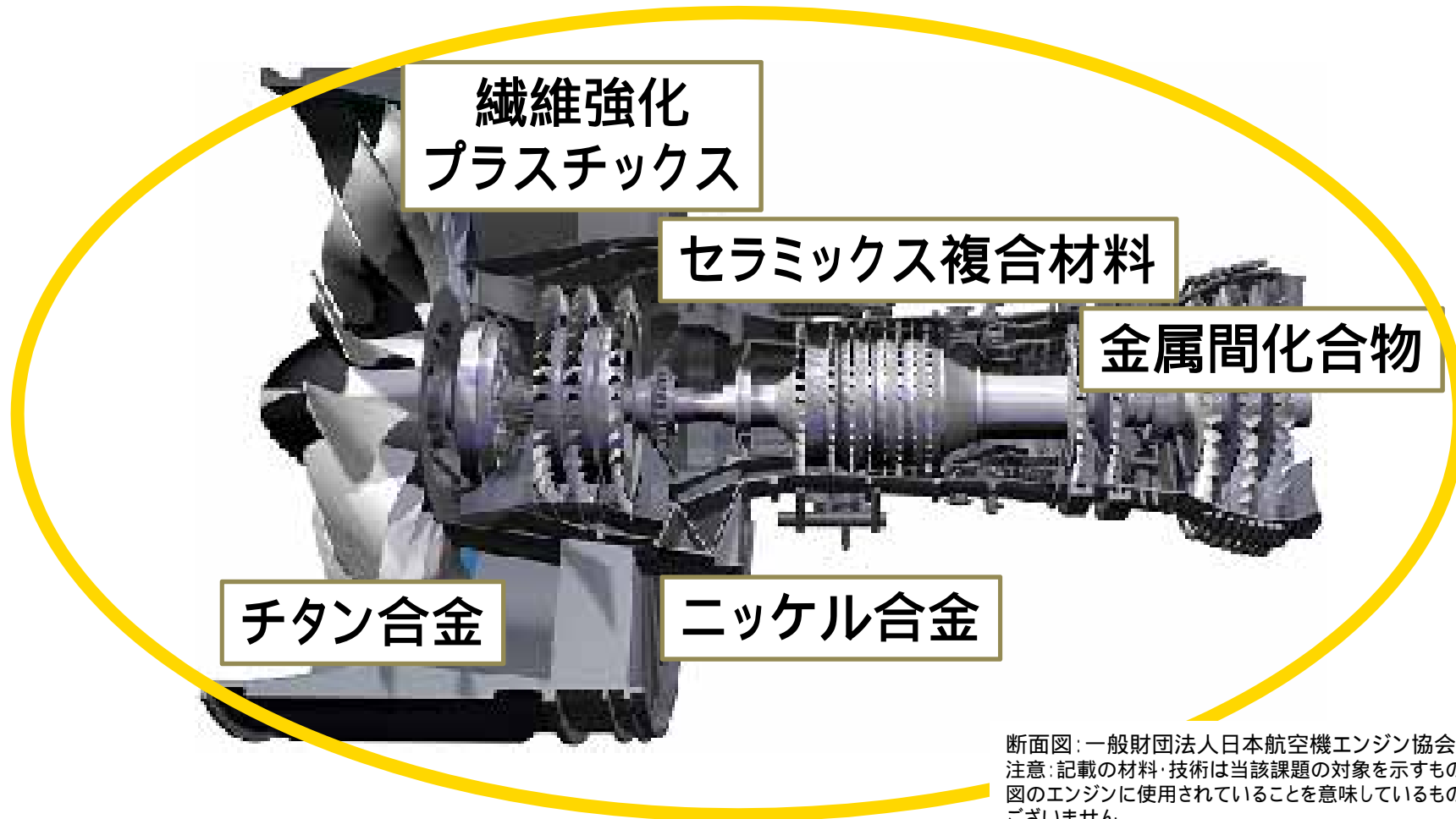
しかし・・・

新興国の追い上げが懸念材料

他産業の国際競争力をも牽引



軽く、強く、熱に強い材料が支える輸送・発電機器



日本の部素材産業は、これから世界と勝負！

目標



基礎・基盤
文部科学省

府省連携
内閣府

出口
経済産業省

目標



社会

輸送機器を軽く
エンジン・発電機器のエネルギー利用効率を
アップ

産業

航空機関連部素材出荷額を1兆円規模へ
(2030年)

構造材料4拠点

樹脂・
繊維強化
プラスチック

セラミックス
コーティング

耐熱合金
金属間化合物

マテリアルズインテグレーション

構築する体制



プログラムディレクター
岸輝雄
新構造材料技術研究組合理事長
東京大学名誉教授

平成26年度予算
35億円

〔ひと言〕

構造材料は日本の輸出産業の根幹を担っており、日本が強みを発揮してきた分野です。しかし、各国の追い上げが激しくなってきました。また、航空機・発電機器では、必ずしも日本の部素材産業がその強みを発揮できておらず、これから世界と勝負していくという状況にあります。

『革新的構造材料』では、大学・研究機関の総力を挙げて、日本が誇る部素材産業の挑戦を支えていきます。同時に、府省連携、産学官連携のもと、イノベーションに資する構造材料の拠点・ネットワークを形成します。